

令和4年度 岡山大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)  
自己点検・評価結果

令和5年5月

岡山大学AI・数理データサイエンスセンター

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
プログラムの履修・修得状況	○	AI・数理データサイエンス教育推進部門および各学部の教務委員会等でプログラムの履修・修得状況の報告を行い、開講状況を把握している。 さらに、受講者ごとに課題の提出状況や進捗状況、履修状況や授業実施形態を把握することで、次期に開講するクラス編成や授業実施形態などの改善に結び付けている。	引き続き履修状況を把握することで、次期開講する際のクラス編成や授業実施形態などの改善に結び付ける。	
学修成果	○	令和4年度シラバス等を確認した結果、数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度の要件である3つの基本的要素について、モデルカリキュラムとの対応関係があると認められた。	引き続きモデルカリキュラムとの対応を意識しながら教育内容を充実させる。	
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	△	全科目について授業評価アンケートを全学的に実施しており、今後説明や資料のわかりやすさ等について分析を行い、授業内容や授業方法の改善に活かす予定である。		授業評価アンケートについては、現在集計中である。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○	本教育プログラム受講者全員に対して授業評価アンケートを実施しており、授業全体の満足度、説明や教材の分かりやすさなどを調査し、後輩等他の学生へ推奨度の向上につながる体制が整備されている。 また、教養教育科目では、授業評価アンケートの「授業全体の満足度」に関する評価結果を全学生に公表することとしており、後輩等他の学生への推奨度の向上につながることを期待される。	当該授業の評価を高めるべく授業の内容を見直すことで、次年度履修生への推奨度の向上につなげていく。	
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	本教育プログラムの中の主に1年次生が受講する「数理・データサイエンスの基礎」を履修することで、運用上、学生全員にプログラム履修資格があるものとして扱っている。 本授業は今後も継続開講することから履修率は学年進行で向上するが、「数理・データサイエンスの基礎」の初回・最終回等にプログラム全体について周知したり、AI・数理データサイエンス教育推進部門のホームページで、本学の数理・データサイエンス・AIに関する取り組み等を伝えて向上に向けた計画を遂行している。 また、本プログラムが学生にとって履修しやすい時間割になっているかを確認し改善を行うこととしている。	引き続きプログラムの履修を促すため「数理・データサイエンスの基礎」の初回・最終回等にプログラム全体について周知したり、ホームページで本学の数理・データサイエンス・AIに関する取り組みを伝えていく。また、今後は新入生オリエンテーションでも広報を行い履修率向上を目指す。 さらに、各学部の状況、学生の履修状況をチェックして、授業数や授業実施の時期を適宜見直していく。 時間割については、本プログラムに対応する授業科目のいくつかを複数回開講することにし、また、履修時期をずらすことにより学生がさらに履修しやすくなるように改善を図った。 また、対応する授業については、他の必修科目と重ならない時間とし、より履修がしやすくなるように配置した。	

自己点検・評価の視点	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取組	備考
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	/			本プログラムは令和4年度から開始したため修了者がでていない。そのため、具体的な進路・活躍状況等の確認については実施していない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	△	<p>本学の卒業生が就職した企業や赴任した学校等を対象としたアンケート調査を実施し、本学卒業生に対する情報リテラシー・数量的スキルの獲得状況に関する意見を収集する予定である。</p> <p>また、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムにおける中国5国立大学の数理・データサイエンス部会によるシンポジウム等で、産業界を含む学外の意見を収集する予定である。</p>	今後、アンケート調査の分析結果や中国5国立大学や産業界を含む学外の意見を収集して、教育プログラムの改善に活用する。	本学では、卒業生が就職した企業等を対象としたアンケート調査は3年に1回実施しており、現在集計中である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	<p>本教育プログラムの一部は既に認定されたりテラシーレベル「数理・データサイエンスの基礎」の授業を含んでおり必修科目としているため各学部の1年次生全員が受講できる体制となっている。</p> <p>この授業は、各学部の教員が授業を行うため、数理・データサイエンス・AIが各学部の領域で活用されている最新の事例、実例などを扱い、学生が学ぶ楽しさや学ぶことの意義を理解し興味を持ちやすい内容となっている。</p> <p>さらに、その他の授業科目についても、適宜具体的な事例を想定した演習を取り入れるなど履修しやすい工夫をしている。</p>	令和5年度から「数理・データサイエンスの基礎」については全学部で必修科目となり、今後も継続開講するため、授業内容については適宜改善を図っていく。	
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○	<p>全科目について授業評価アンケートを全学的に実施しており、結果を担当教員および委員会等において共有して、個々の教員の授業内容の向上に寄与している。</p> <p>また、評価に問題のある授業については、AI・数理データサイエンス教育推進部門や各学部教務委員会等から担当教員へ助言を行う体制を整えている。</p> <p>AI・数理データサイエンス教育推進部門において、学生アンケートの結果や関連学会、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム等へ参加し情報収集することで、他大学の授業内容、地域企業、官公庁からの意見を収集しており、それらを参考に授業内容及び実施方法の見直し改善を図っており、今後も継続していく予定である。</p>	今後も継続して授業評価アンケートの分析結果や関連学会、数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム等へ参加することで得られた情報に基づき、授業内容及び実施方法の見直し改善を図っていく。	